

群馬県広域道路交通計画とは

(1)目的

20年先のぐんまの将来を見据えた広域的な道路交通の方向性を定め、今後の計画的な道路整備や維持管理、効率的な道路交通マネジメント等を推進するため、策定するものである。

(2)計画期間

2022年(令和4年度)から20年間（概ね中間年で見直し）

社会資本整備を取り巻く変化の見通し

頻発化・激甚化する気象災害と増大する災害リスク

人口減少と高齢化の更なる進展	市街地の拡散と人口密度の低下
公共交通衰退の加速化	過度に自動車交通に依存した社会
加速する社会資本の老朽化	温室効果ガスによる地球温暖化
AIやIoTなどの新技術の進展	コロナ後のニューノーマルへの対応

2040年に目指す将来像【ぐんま・県土整備プラン2020】

- ・ 災害に強く、安定した経済活動が可能な群馬県
- ・ 誰もが安全・快適に移動でき、
人と人、人と地域のつながりを生み出す群馬県
- ・ 地域に愛着や誇りを持ち、
良好な社会環境のもとで持続的に暮らせる群馬県

広域道路交通計画の改訂ポイント

- ・ 気象災害の新たな脅威にしっかりと対応するため、
ハード・ソフト一体となった防災・減災対策を加速
- ・ コロナの感染拡大を契機とした移動需要の減少と
人口減少等に伴う将来的な公共交通衰退に対応するため、
道路ネットワークと多様な交通モードの連携を強化
- ・ インフラ分野におけるDXの加速化に対応した、
道路分野のDX推進による維持管理の効率化・高度化

課題

災害時における
道路ネットワークの機能維持

- ① 気候変動の影響等により頻発化・激甚化する気象災害と増大する災害リスク
- ② 依然として気象災害の危機にさらされている多くの人命・財産
- ③ 重要交通網の寸断による社会的・経済的損失リスクの増大

物流の効率化と周遊観光の促進や
都市間連携の強化

- ④ ジャストインタイムや迅速な輸送への対応など、変化する物流ニーズへの対応
- ⑤ 日本海側港湾への輸送なども視野に入れた戦略的な物流ネットワークの構築
- ⑥ 渡河部や急峻な山岳地帯に位置する県境部の広域道路ネットワークの強化
- ⑦ インバウンド観光客の誘致に向けた、県を跨ぐ広域的な周遊観光の促進
- ⑧ 人口減少により維持が困難となる生活に必要な都市機能を相互利用・補完するための市町村間連携の強化
- ⑨ 自転車の活用による観光振興と地域の創生

公共交通の低い利便性と
自動車への過度な依存からの脱却

- ⑩ 利便性の高い自動車への過度な依存からの転換
- ⑪ 公共交通ネットワークの縮小やサービス水準低下の改善

計画的な
社会資本の老朽化対策推進

- ⑫ 加速する社会資本の老朽化への対応
- ⑬ 社会資本ストックの増加による点検・維持管理・更新業務の増大と担い手不足に対応するための効率化・高度化

将来像の実現に向けた課題と取組

課題解決に向けた方向性

災害時に機能する 道路交通ネットワーク構築

大規模な災害に対して、円滑な避難や迅速な救命救助、復旧復興を可能にするため、道の駅を含む防災拠点の整備・強化と災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの整備を推進する。

物流の効率化と 観光振興や都市間連携を支える 道路交通ネットワーク構築

高速道路IC及びスマートICへのアクセス強化、都市部の渋滞や県境部の線形不良箇所などの脆弱な道路ネットワークの強化を図り、物流と観光が地域経済を牽引できる基盤を整備する。

安心して豊かな暮らしを持続できるよう、市町村と連携してまちのまとまりを維持するとともに、まちのまとまりをつなぐ都市間連携の強化を推進する。

多様な移動手段の確保

コロナ後のニューノーマルを見据え、全ての県民がそれぞれの生活スタイルに合わせた快適な移動が可能となるよう多様な移動手段を整える。

また、使用者が減少している鉄道や広域的な幹線バス路線網などの基幹公共交通軸を、将来にわたって確保するため、交通拠点の交通結節機能の強化や交通拠点へのアクセス機能の強化により、多様な交通モードの確保を図り、自動車以外の多様な移動手段の選択が可能な社会への転換を推進します。

持続可能で効率的な メンテナンスの推進

今後も社会資本を長期にわたって安全に使用し続けるために、維持管理・更新費用の中長期的な縮減と平準化を推進するとともに、ICTの導入などDXを推進し、維持管理の効率化・高度化を図る。

基本方針と政策・施策

(1) 広域道路ネットワーク

基本方針1 災害に強い広域道路ネットワークの構築

政策1 災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築

施策1:防災・物流拠点集積エリア内外を結ぶレジリエンスネットワークの整備・強化

基本方針2 経済活動を支える物流・人流ネットワークの構築と県境部の強化、まちのまとまりをつなぐ道路ネットワークの整備・機能強化

政策2 物流の効率化と観光振興を支える道路ネットワークの整備・強化

施策1:経済活動を支える物流・人流ネットワークの構築

施策2:隣接県とのネットワークの整備・強化

施策3:自転車の安全な利用環境の創出とネットワークの構築

施策4:スマートICの整備・強化

政策3 まちのまとまりをつなぐ道路ネットワークの整備・強化

施策5:都市間連携を強化する道路ネットワークの構築

(2) 交通・防災拠点

基本方針3 鉄道や幹線バスが集中する交通拠点における交通結節機能の整備強化

政策4 交通拠点とアクセス機能の整備・強化

施策1:交通結節機能の強化(モーダルコネクットの強化)

施策2:アクセス機能の強化

基本方針4 防災拠点(道の駅等)の、ソフト・ハード両面からの整備による機能強化

政策5 防災拠点の整備と機能強化

施策1:防災拠点のソフト対策による機能強化

施策2:防災拠点のハード整備による機能強化

(3) ICT交通マネジメント

基本方針5 自動運転技術やICTを活用した効率的で持続可能な移動手段の確保

政策6 まちづくりと連携した多様な移動手段の確保

施策1:まちづくりと一体となった自動運転技術の段階的導入の検討

施策2:交通マネジメントの強化(災害時の道路通行可能情報や観光地の渋滞情報の提供等)

施策3:ICTを活用した公共交通の利便性向上

基本方針6 DXの推進による維持管理の効率化、高度化

政策7 持続可能で効率的なメンテナンスの推進

施策1:DXの推進による維持管理の効率化・高度化

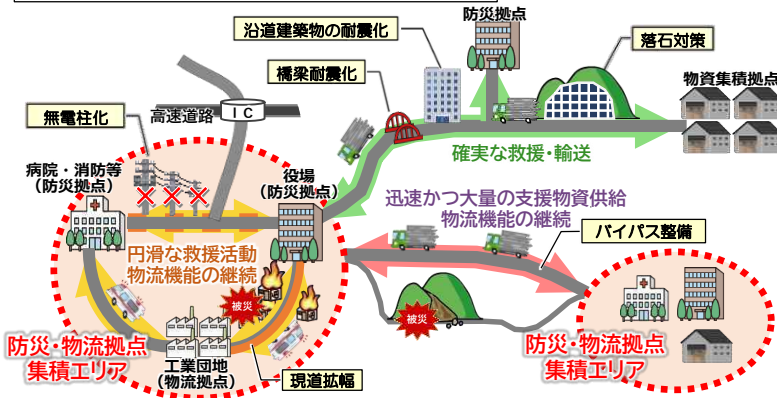
(1) 広域道路ネットワーク

基本方針1 災害に強い広域道路ネットワークの構築

政策1 災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築

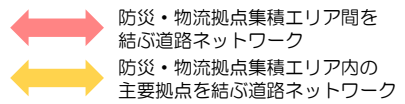
施策1 防災・物流拠点集積エリア内外を結ぶレジリエンスネットワークの整備・強化

レジリエンスネットワークのイメージ



災害時にも機能する強靱な道路ネットワークに必要な機能

- ◆ 道路閉塞が生じにくく早期に啓開できる幅員の確保（幅員12m以上）
- ◆ 寸断要因の排除（落石・土砂崩落、落橋、電柱倒壊）
- ◆ 多重化されたネットワークの構築



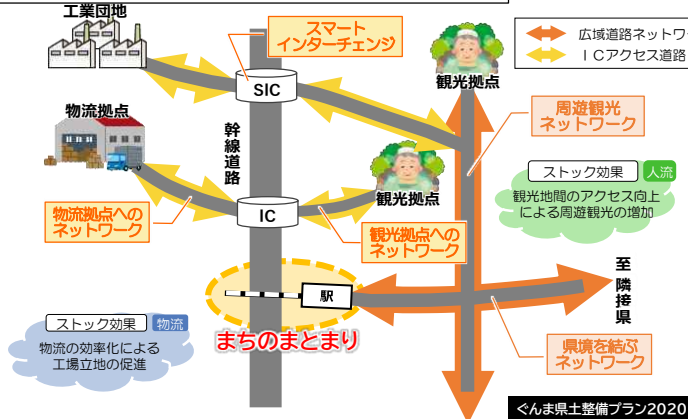
ぐんま県土整備プラン2020

基本方針2 経済活動を支える物流・人流ネットワークの構築と県境部の強化、まちのまとまりをつなぐ道路ネットワークの整備・機能強化

政策2 物流の効率化と観光振興を支える道路ネットワークの整備・強化

施策1 経済活動を支える物流・人流ネットワークの構築

物流・人流ネットワークの整備イメージ



ぐんま県土整備プラン2020

施策2 隣接県とのネットワークの整備・強化

県境部の課題検討箇所



ぐんま県土整備プラン2020

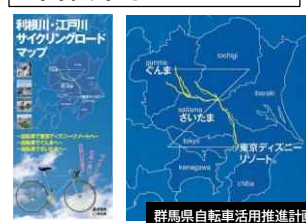
施策3 自転車の安全な利用環境の創出とネットワークの構築

自転車通行空間の整備



群馬県自転車活用推進計画

自転車ネットワーク



群馬県自転車活用推進計画

施策4 スマートICの整備・強化

新たなスマートIC整備検討



ぐんま県土整備プラン2020

政策3 まちのまとまりをつなぐ道路ネットワークの整備・強化

施策1 都市間連携を強化する道路ネットワークの構築

まちのまとまりをつなぐ道路イメージ



広域道路ネットワーク ビジョン図

広域道路ネットワークにおける拠点・基本軸の設定

人口予測と広域生活圈

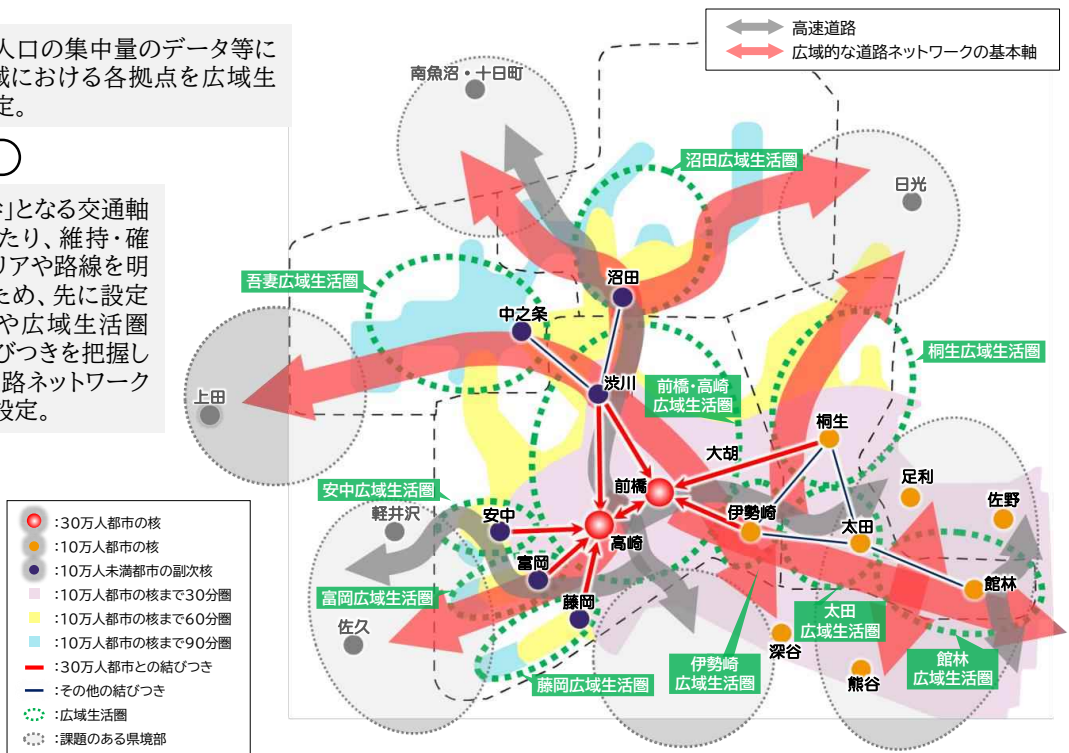
- ・20年後を展望すると、多くの市町村が人口10万人を下回り、既存の都市機能の維持が困難になることが想定される。
- ・人口減少社会にあっても、持続的かつ快適に住み続けるためには、デジタル技術を活用した都市的サービスの補完(DX)を前提とした都市経営・まちづくりが必要になってくると想定される。
- ・そのためには、市町村界に拘らない人の行動範囲に着目した広域生活圈を形成し、デジタル技術(遠隔医療・テレワーク等)を活用しつつも、デジタル技術では担えない必要な都市機能を受容するためには、広域生活圈の各拠点への都市機能の集約化とアクセスの確保を図ることが必要と考えられる。

拠点の設定

- ・人の動きや人口の集中量のデータ等に基づき、地域における各拠点を広域生活圈毎に設定。

基本軸の設定

- ・広域的に「幹」となる交通軸を将来にわたり、維持・確保すべきエリアや路線を明らかにするため、先に設定された拠点や広域生活圈相互間の結びつきを把握したうえで、道路ネットワークの基本軸を設定。



（2）交通・防災拠点

基本方針3 鉄道や幹線バスが集中する交通拠点における交通結節機能の整備強化

政策4 交通拠点とアクセス機能の整備・強化

施策1 交通結節機能の強化
(モーダルコネクートの強化)

施策2 アクセス機能の強化



基本方針4 防災拠点の、ソフト・ハード両面からの整備による機能強化

政策5 防災拠点の整備と機能強化

施策1 防災拠点の
ソフト対策による機能強化

施策2 防災拠点の
ハード整備による機能強化

「道の駅」におけるBCP策定や
防災訓練などの体制整備

「道の駅」の整備・機能強化や
SA・PAの活用

防災拠点(道の駅)

**広域的な
防災拠点機能
を持つ道の駅**
「防災道の駅」含む

主な役割
大規模災害時の広域的な復旧・復興活動拠点 …… 7箇所
「防災道の駅」をはじめ、大規模災害時等の広域的な復旧・復興活動の拠点として、県地域防災計画及び県との協定によりその活用が求められる「道の駅」

**地域の
防災拠点機能
を持つ道の駅**

地域の防災拠点 …… 15箇所
市町村地域防災計画に位置付けられており、地域防災計画の役割及び県との協定に基づき、地域の防災拠点となる「道の駅」

**その他の
道の駅**

地域の防災活動を補完する拠点 …… 11箇所
市町村地域防災計画に位置付けられていないが、大規模災害等の発生時は、必要に応じて県との協定により活用を調整し、地域の防災拠点と連携・協力し、地域の防災活動を補完する「道の駅」

- 広域的な防災拠点機能を持つ道の駅
- 地域な防災拠点機能を持つ道の駅
- その他の道の駅
- 第一次防災拠点※



※第一次防災拠点 …… 群馬県地域防災計画に位置付けられた、応急対応の活動体制の確立・救助救援、医療及び消火活動拠点(県庁、合同庁舎、災害拠点病院、消防本部、自衛隊等)

(3) ICT交通マネジメント

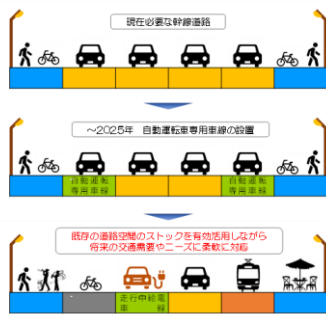
基本方針5 自動運転技術やICTを活用した効率的で持続可能な移動手手段の確保

政策6 まちづくりと連携した多様な移動手手段の確保

施策1 まちづくりと一体となった自動運転技術の段階的導入の検討

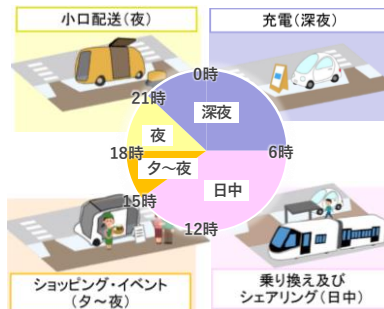
施策2 交通マネジメントの強化

自動運転に対応した道路空間の再編

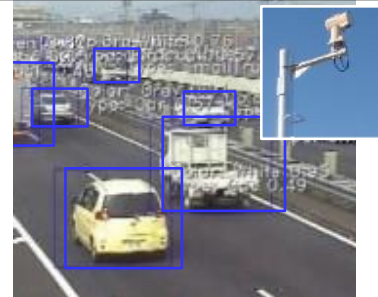


ぐんま県土整備プラン2020

カーブサイド(緑色側等道路空間)の利活用



AIを活用した効率的な交通マネジメント



県土整備プランDXアクション

施策3 ICTを活用した公共交通の利便性向上

MaaSの導入・普及



路線バスの乗換検索サービスの充実



バスロケーションシステムの導入



基本方針6 DXの推進による維持管理の効率化、高度化

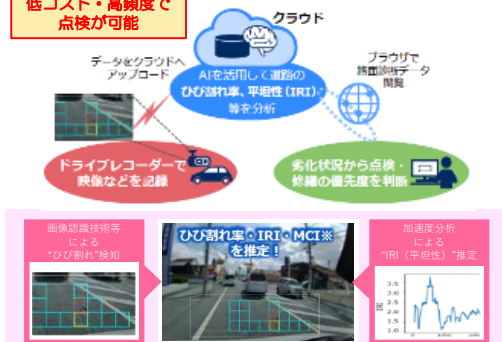
政策7 持続可能で効率的なメンテナンスの推進

施策1 DXの推進による維持管理の効率化・高度化

車載搭カメラとAIを活用した舗装劣化状況評価

道路パトロールで走行しながら路面状況を撮影
撮影結果からAIを活用して損傷度を評価

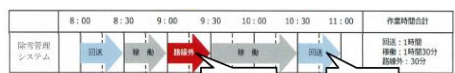
低コスト・高頻度で点検が可能



県土整備プランDXアクション

GPSを活用した除雪作業の効率化

路線毎の作業実績等が集計できる。
同一機械で市町村道の除雪も可能。



県土整備プランDXアクション

橋梁等管理施設におけるドローン等の点検ロボットの活用

ドローン等を活用し、遠隔で点検



県土整備プランDXアクション